

青梅市における小中一貫教育の推進 ～より良く生きるための学びへ～

青梅市の学校教育は、郷土の歴史と文化を尊重し、文化の継承と豊かな青梅の創造を目指し、平和な国家および社会の形成者として自主的かつ進取の精神にみちた健全な人間の育成を目指して行っています。また、社会や時代の変化に伴う課題をとらえ、将来の展望を持った広い視野に立つ柔軟な発想を基に、未来を担う人間の育成を図ることが重要と考え、下記の教育目標にもとづき教育を推進しています。青梅市における小・中一貫教育では、小・中学校がこのような考え方について共通理解を図り、義務教育の9年間を通して発達段階に応じた教育を推進することにより、児童・生徒がよりよく生きるための学びを実現します。

青梅市教育委員会の基本方針

- 1 「人権尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成
- 2 「豊かな個性」と「創造力」の伸長
- 3 生涯学習の推進と社会教育の充実
- 4 生涯を通じた多様なスポーツ・レクリエーションの振興
- 5 文化・芸術の振興
- 6 「市民の教育参加の促進」と「主体的な教育行政の推進」

青梅市教育大綱基本方向

- 次代を担う子どもをみんなで育むまち
- 文化・交流活動がいきづくまち
- みんなが誇れる青梅の教育に向けて

青梅市教育委員会教育目標

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員としての自覚をもち、勤労と責任を重んじ、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

青梅市教育推進プラン

- 柱1 国際化時代を生きるために
国際社会に生きるための資質や能力を育成する教育の推進
- 柱2 社会のよき形成者となるために
社会の一員としての基礎・基本を身に付ける教育の推進
- 柱3 青梅の将来を担うために
地域に根ざした教育の推進
- 柱4 教育の質を高めるために
家庭・学校・地域の連携による教育の推進

小中一貫教育のねらい

- 小学校段階から義務教育9年間を見通した指導を行うことにより、発達段階に応じた資質・能力を確実に身に付ける。
- 小・中学校教員の連携強化により、特別な支援や生活指導上の配慮を継続し、小学校から中学校へスムーズに接続できるようにする。
- 小・中学校それぞれの教員の専門性を活かした指導による質の高い授業を展開する。

小中一貫教育の概要

- 中学校区において合同校内研修会を年間3回実施し、各教科等の指導計画、生活指導の方針、いじめ防止対策、不登校支援等について共通理解を図り、歩調を合わせて教育活動を展開する。
- いじめ問題については、中学校区ごとにスローガンをつくり、小・中学校が一緒に取り組む。
- 小・中学校が互いに授業観察や意見交換を通して児童・生徒の実態を把握し、課題について協議する。
- 要支援および要配慮児童・生徒について情報を共有し、より良い支援の継続を図る。

小中一貫教育で期待する成果

- ・ 小・中学校で目標を共有することによる義務教育終了時のゴールを見据えた教育の推進
- ・ 小・中学校それぞれの教員の専門性を活かした指導による質の高い授業展開
- ・ 小学校から中学校への円滑な接続

小中一貫教育でめざす児童・生徒像

自分の力で たくましく生きる子

- 自ら考え、判断して行動し、目標に向かって粘り強く取り組むことができる子ども
- 様々な人と関わり合う中で、積極的にコミュニケーションを取り、自分を表現することを通して、あたたかい人間関係を築くことができる子ども

小中一貫教育推進上の課題

- ・ 小・中学校が互いの教育活動について協議し調整する時間の確保
- ・ 小・中学生および教職員が交流する際、互いの学校を行き来するための移動手段、時間の確保
- ・ 小規模校においても児童・生徒が切磋琢磨する環境の創出

小中一貫教育を推進する実施方策について

学校運営

- 小中一貫校の教育目標
9年間を通してめざす児童・生徒像を捉えた教育目標の策定
- 小中一貫校の組織体制の構築
小中合同の校務分掌など校務運営体制を構築するとともに、学校運営協議会を通じた学校・地域・保護者を含めた連携体制の構築
- 小中一貫校として、学校運営の透明性・効率性を確保

教育活動

- 教員の指導体制
小中一貫校として、小学校・中学校の教職員がチームとして協力し、学年や教科の枠を超えた指導法の共有・実践
- 小・中一貫カリキュラム
小学校から中学校までの9年間を見通したカリキュラムを作成し、生徒の成長段階に応じた切れ目のない学びを体系的に推進
- 個性や違いに応じた学びを尊重した教育
生徒の発達段階や習熟度に応じた指導を実施し、9年間を通じて一人ひとりの学習進度をサポート

施設形態

- 施設一体型小中一貫校
小・中学生および教職員が同じ施設内で生活することにより、小中一貫教育を最も推進することができる。また、小学校から中学校への進学が最も円滑に進められることから施設形態は施設一体型を目指す。
- 施設隣接型・分離型小中一貫校
児童・生徒数、地域の実態や立地条件上、一体型が困難な場合は、隣接型または分離型にて、小・中学校教員が、学習指導や生活指導上の目標や課題を共有することにより、小中一貫教育を推進する。